

Kuwabara Surveying Corporation

# 桑原測量 Report

3  
号

株式会社 桑原測量社  
2007年12月15日発行

” 地域・社会に貢献できる元気で豊かな会社をめざして”

『銀世界を楽しむ』季節の到来です！  
雪は自然のめぐみ  
明るくさわやかに

本社屋上より撮影

## topics

*Kuwa Soku Report 1*

● 永年勤続表彰おめでとうございます

*Kuwa Soku Report 2*

● 技術情報（中越地震特別テーマ展に出展）

*Kuwa Soku Report 3*

● 自社開発アプリ【施設管理システム】を紹介します

*Kuwa Soku Report 4*

● 社内外活動のご紹介

- ◆ 新潟県土地開発公社様のご依頼をうけ、研修会を新潟市で実施しました。
- ◆ 妙高高原の秋を満喫しました。
- ◆ 社内レクリエーションで『社内ボウリング大会』を開催しました。
- ◆ 今年2回目の『愛の献血』が当社で行われました。
- ◆ 福祉施設へ訪問して、演奏してきました。【上越フルートアンサンブル オイレン】

*Kuwa Soku Report 5*

● 研修に参加しました（社員研修報告）

*Kuwa Soku Report 6*

● 桑原測量社 広報室から

平成19年11月27日  
上越商工会議所において、永年勤続表彰式が行われました。

当社では、右の6名の方が該当され、中でも齊藤さんが30年勤続で商工会議所会頭の他、上越市長表彰も合わせて受賞しました。  
おめでとうございます。これからも健康に留意され、仕事にプライベートに頑張ってください。

気が付けば、入社して10年も経つのかと自分でもビックリです。時間の経つのは年々早くなっている様に感じるので、時間を無駄にしないで仕事も頑張っていけたらと思います。(大島さん)

2度目の成人式を迎えた気分ですが、これからも初心を忘れずがんばりたいと思います。(澤海さん)

30年は長いようですが、あっという間に過ぎました。今年から用地部門からGISグループに異動しました。30年を節目に、これまでの経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思っています。(齊藤さん)

入社してから早10年・・・年取るはずですが、体力的な衰えを感じる今日この頃ですが、せめて精神は若く！いくつになっても「まだまだこれから」という気持ちを持ち続けて行きたいです。(福島さん)

入社して10年の月日がたちました。これからも、会社や地域に貢献していけるよう頑張りたいと思います。(秋山さん)

入社して15年、結婚・出産と色々な事がありました。家族の支えもあり頑張れました。これからも仕事に家庭にと頑張っていきたいと思っています。(荻原さん)



平成19年10月31日～11月1日にかけて、特別テーマ展「中越災害と復興にむけての空間情報技術の利用」が開催されました。

当社は、くびき野GIS協同組合として「災害弱者への緊急時支援体制は万全か？」をテーマに、「災害時要援護者支援システム」をパネル出展いたしました。下記にその概要を記載します。

～思いがけない災害の時、助けが必要な人がいます～

災害発生時、人的被害の多くは、一人暮らしの高齢者をはじめとする、いわゆる災害弱者といわれる、災害時要援護者の方々です。

災害時の安否確認や避難誘導、さらには避難所対応等の支援を迅速かつ円滑に行うためには、災害時要援護者台帳の整備が必須です。この名簿は災害時に自力で避難出来ず、周りの人の支援を必要とする人を対象として、「手上げ方式」または「同意方式」、または両方を併用して作成します。これらの情報は、地域の自主防災組織や民生委員、児童委員、警察、消防などに提供し安否確認や避難支援に役立てます。また、支援の際は、災害発生箇所や避難区域の特定など地図は欠かせません。

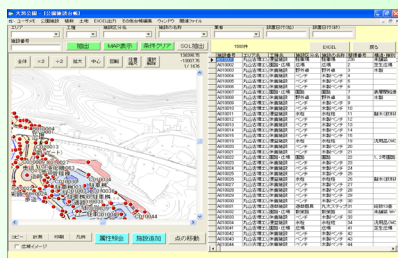
上越市が本年度導入した「災害時要援護者支援システム」は、高齢者の見守りネットワーク事業と連携し、自治体の要望を可能な限り取り入れ構築したGISです。このシステムを活用し、地図上から要援護者を検索し、「安否確認リスト」や「要援護避難者リスト」を迅速に作成し、支援体制をとることが可能になります。現在、要援護登録者が1万人を超え、災害弱者の方々の不安が高まっていることを示します。この度の中越沖地震発生時には構築中であり、残念ながら活用することが出来ませんでした。その必要性を十分認識する結果となりました。(宮下編集長)

施設管理システムとは、当社が自社開発した汎用型システムです。あらゆる施設の管理に利用できるように開発したものです。

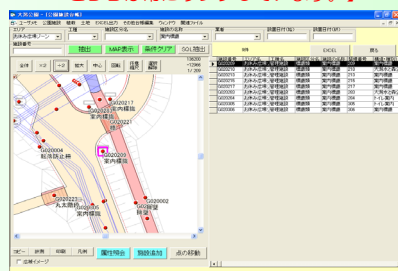
日常管理には、管理者自らが日誌のように簡単にデータの入力、訂正、削除ができることが必須となります。従来の面、線での表示に替わり全てポイントで管理することで、管理者によるデータの更新が簡単に行えます。

自社開発ソフトですが、完成したパッケージ商品ではありません。発注者様、及び使用する管理者のニーズに応じたカスタマイズすることで使いやすいシステムへの対応が可能です。

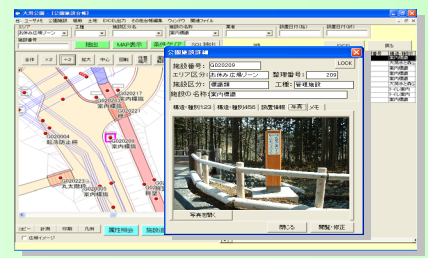
現況の全ての管理施設を最初からすべてベクタ化するものではありません。あくまで日常のパトロールで得られる情報を、経緯として登録・保存して異動の多い行政、企業様での負担の軽減と適切な管理を支援するツールです。(宮下編集長)



【施設とDBを同時に表示施設ポイントとDBは常にリンクしています。】



【地名、種別等、抽出条件を絞り込んだ検索ももちろん可能です】



【施設のポイント又はDB該当欄をクリックするとその詳細が閲覧できます】



【ポイントで管理ですので、お客様が新規追加、内容変更、施設の移動等が簡単に行えます。】

◆新潟県土地開発公社様のご依頼をうけ、研修会を新潟市で実施しました。

平成19年12月7日、新潟県土地開発公社様から『公社職員業務研修』として講師派遣のご依頼を受け、《GPS測量の実務に伴う留意事項と登記申請の留意事項》について、前者を当社、業務グループリーダーの斉木さん、後者について新潟県公共嘱託登記土地家屋調査士協会の博田さんが、講師となり新潟市で研修会を実施しました。

当日は県内各所から40名余りの職員の皆様方からお集まり戴きました。政府のe-Japan計画に伴い、平成14年4月に測量法が改正され世界測地系が原則となり、平成17年3月には、不動産登記法が全面改正され登記申請も原則、世界測地系とされました。現在はGPS測量が主流になり測量精度は、これまでの1万分の1から100万分の1と言われ、大幅に向上しました。しかしながら、地球上の絶対精度となると、使用する既知点、旧測地系からの座標変換方法によって大きく左右され、適切な方法を選択しないと後続作業に大きな問題を残すことになりかねません。

座標の扱いが混乱する中、登記に関しても紙ベースでの申請から電子申請システムへと情報化の波が押し寄せて来るなど位置情報（座標）の重要性がさらに高まっています。

土地開発公社の皆様もこのような現実を踏まえ、GPSの基礎と座標変換方法に関する留意事項、さらに改正不動産登記法に関する重要ポイントについて、発注者の立場から参加された職員の皆様は真剣な面持ちで耳を傾けておられました。皆様、お忙しい時期、大変お疲れ様でした。  
(宮下編集長)

◆妙高高原の秋を満喫しました。



苗名滝（妙高高原杉野沢）

秋を探しに妙高高原へ、小さい秋と大きい秋を見つけたよ！

10月28日（日）午前9時 池の平へ集合。妙高市主催の「秋のエコ・トレッキングin池の平」に参加しました。

当日は、前日の雨から一転、快晴、心ウキウキで、妙高山に向かって車を走らせた。

私たち親子は、数あるコース・催しの中から日頃の運動不足解消の為に、一番過酷なコースと想われるAコースの池の平（いもり池）から杉野沢（苗名滝）までの約6キロメートルを歩くコースに、家族三人で挑戦する事にしました。色とどりに染まった景色と高原の爽やかな風の中で、久しぶりに親子の交流を楽しみました。

追伸、来年も計画されているようですので、また参加して鋭気を養いと思っています。

いろいろなコース・催しが計画されているようです。皆様も、是非参加して秋の高原の色模様と森林浴を体験してみませんか！

(投稿者：高沢さん)

◆社内ボウリング大会を開催しました。

11月10日(土)に職員サークル(桑友会)主催による球技大会が行われました。今回の競技種目はボウリング。上越しジャーランボウルにおいて、2ゲームの合計得点を競いあいました。

ボウリングをするのは数年ぶりという人も多く、自分の投球に一喜一憂。ストライクが出た時は、みんなで拍手。平均年齢が若干高め？な私達は間に休憩を挟みながら、楽しくプレイすることができました。

ちょっと前？のボウリング全盛期に腕を振るった50代の皆様が大張り切り、でも昔のようには？？？  
(次の日は、あ～腰が…腕が…で大変でした。)

そんな中、始球式でストライクを出した桑原社長が見事優勝！ きっとこの日のために、秘密の練習をしていたのでは？…………

その後、ロワジールホテル上越にて懇親会が行われました。ロワジールホテルでの宴会は初めてでしたが、お料理が美味しくて大好評。食べたり・飲んだり・歌ったり、アツという間の2時間でした。飲み会最高！～

(渡邊編集員)



## ◆今年2回目の『愛の献血』が当社で行われました。



今年3月の社会奉仕活動での『愛の献血』に引き続き、本年第2回目の献血活動が、12月5日当社で実施されました。

測量業界では、降雪前の超多忙な時期ですが、前後でやりくりして多くの職員から協力して頂いたほか、今回も前回と同様、当社の協力的会社、西田中企業団地の各企業の皆様から計23名のご参加を頂きました。ご協力頂いた皆様、「温かな愛情と血液」を本当に有り難うございました。

冬に向かい多くの血液が必要です。皆様の献血で一人でも多くの人の命が救われます。心より感謝申し上げます。（宮下編集長）

## ◆福祉施設へ訪問して、演奏してきました。【上越フルーツアンサンブル オイレン】



前号で福祉施設での訪問演奏の記事を投稿したところ、短期入所施設【桑の里】から「ぜひ私達の所にも来て、演奏してもらいたい。」とお話を頂き、12月9日にまた【上越フルーツアンサンブル オイレン】のメンバーで、桑の里へ訪問して演奏をしてきました。

今回はクリスマスも近いので、「もみの木」「聖夜」などクリスマスソングも交えて10曲ほど演奏させて頂きました。当日外はあいにくの雨模様でとても寒かったのですが、会場内は大勢の観客のみなさんの熱気で、とても熱かったです。（私は演奏の他に初めて司会もしたのですが、緊張して頭の中が真っ白になってしまいました。でも演奏はバッチリしましたよ。）

皆さんにとっても喜んで頂き、たくさんの拍手と歓声に包まれて、「音楽をやって良かった」と心から思えました。最後には「また来て下さいね」と声をかけて頂いたので、機会があればぜひまた伺いたいと思います。

（投稿者：丸山さん）

実施日：平成19年10月23日  
（火）～26日（金）  
会 場：東京 九段会館  
名 称：河川情報取扱技術研修  
主 催：財団法人 河川情報センター  
参加者：業務第1G 勝島さん



（勝島さん）

幼少の頃、近所に流れている小川などで川遊びをしていました。手足がシワシワになるほど一日中いたり、泥などで汚れて帰宅して叱られたりするのは頻繁にありました。今思えば、その頃から川に関わるのを宿命付けられていたのではないかと思います。

私が本格的に流量観測業務に携わったのは今年の春からであり、半年程は会社の諸先輩から習いつつ作業をしてきました。作業を行っていて、不明な部分、疑問が多数あり、参考図書などで理解しようと試みましたが、うまくいきませんでした。そのため、監督員との協議ではとまどう場面が多々ありました。

そんな時、本研修が実施される事を知り、理論に裏付けされた知識や技術を身に付けたく申し込みました。研修が始まると、実作業だけでなく様々な情報や広い知識が必要であることを、痛感しました。

会場では、全国から参加された方々と実作業に関して、作業方法の再確認や、作業上での実態を話し合うことが出来たのは大変有意義であったと感じています。

これから学んだことを、早速実務に生かし、水文観測をこれからも奥深く探求していきたいと希望にもえております。

最後に講師の先生方、貴重な体験談を聞かせてくださった参加者の皆様、有難う御座いました。

今年も気が付けば12月になっていました。皆さんは今年一年どんな年でしたか？

今年は暖冬少雪で始まり、夏は中越沖地震と猛暑、秋はなんかあつという間に過ぎ去りそして今年も平年より早い初雪が降りもうあと数日で今年一年が終わってしまいますね。

私の一年は、ノロウイルス感染から始まり、夏は中越沖地震で我が家が被災し精神的にかなり落ち込みました。ですが私この秋に結婚をひかえておったので、被災で落ち込んだ精神もすぐ前向きに切りかえることができました。おかげさまで無事に結婚をしまして、今は幸せいっぱい新婚生活を過ごしています(^\_^)

本当に私にとってこの一年は激動の一年でありました。人生のターニングポイントだったんだろうと自分なりに思っております。来年は無病息災・家内安全で何事もなく一年を過ごせる事を祈っております。皆さんも来年は良い年でありますよう桑原編集員一同願っておりますm(\_ \_)m それでは皆さん良いお年を(^\_^) (山崎編集員)

この度、編集に初参加しました。第3号はいかがでしたでしょうか？初めての編集作業にとまどうことばかり・編集長のおかげでなんとかまとまりほつとしていきます。正直なところ時間との勝負でかなりきつかったです。でも、読者のみなさんに喜んでもらえるなら！次号もがんばりますので楽しみにしててください。（澤海編集員）

地域・社会に貢献できる会社をめざして  
株式会社 桑原測量社

- 本社所在地  
〒943-0873 新潟県上越市大字西田中62番地14
  - 電話：025-525-9100
  - FAX：025-525-0840
  - URL：http://www.kuwa-soku.co.jp/
- 発行：株式会社 桑原測量社 広報室  
編集委員：宮下・高沢・斉木・山崎・渡邊・丸山・澤海